

# 今、博物館は何をするべきか

—コロナ以後の持続可能性を考える—



2020  
**12.7** 月  
13:30 ~ 17:30

**オンライン開催**  
(Zoom ウェビナーを使用したオンライン開催)

定員 90 名 (先着順)  
要事前申込 (参加無料)  
(受付締切 12 月 3 日)  
※申し込み方法は裏面をご覧ください。

お問い合わせ先：  
明治大学博物館  
Tel. 03-3296-4448

■主催■

明治大学博物館・南山大学人類学博物館

■プログラム■

13:30-13:35 挨拶 **奥田隆明** (南山大学人類学博物館館長)

13:35-13:45 開催趣旨の説明 **黒澤浩** (南山大学人文学部)

13:45-14:15

**報告1** 博物館が人と社会と向き合うために：英国の状況と日本の人材育成  
**井上由佳** (明治大学文学部)

14:20-14:50

**報告2** 「博物館」で、リラックス効果がある？—心理・生理測定法の開発—  
**緒方泉** (九州産業大学地域共創学部)

14:55-15:25

**報告3** 「非接触」社会から「触発」は生まれない  
—2025 大阪万博をユニバーサル化するための提言—  
**広瀬浩二郎** (国立民族学博物館グローバル現象研究部)

15:45-17:30 討議

17:30 終了

# 今、博物館は何をすべきか

## —コロナ以後の持続可能性を考える—

### 開催趣旨

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、今日、われわれの世界が危機的状況にあることは、誰もが認めることであろう。そして、コロナ以後を見据えての「新しい日常」という言葉も登場しているが、何がどう新しくなるのかは必ずしも明瞭ではない。

そんな状況下で、博物館はコロナ以後の世界にどのように対応していくべきなのだろうか。本シンポジウムのサブタイトルはそのことを表している。

だが、ここで考えたいのは、博物館がコロナ以後の活動として、例えば、密を避けるために大規模な展示は控えるべきとか、ハンズオン展示や人が密になるワークショップは控えよう、というようなことではない。モノに触れたり、人と集ったりすることは人間にとって当たり前のことであり、そうした日常の行動を通じて人間は文化や社会を形作ってきた

のである。それを否定する「新しい日常」とは、人間らしさの喪失であるとも言える。

コロナ禍の中で、われわれの従来の博物館に対するまなざしを変えなければいけないことは確かであり、博物館自体が、様々な視点からその存在意義を問い直される状況に置かれている。そこで、本シンポジウムでは、そのような大きな価値観の変更が迫られる中で、博物館がどのように社会とかかわっていくかを主題に考えたい。

ただし、このシンポジウムで何らかの答えを見出せるわけではないだろう。しかし、少しずつだとしても、こうした問題意識を共有する出発点にはなるかもしれない。本シンポジウムは、そこにわずかな光明を見出すべく開催するものである。

### 申込方法

下記のメールアドレス（12月8日までの期間限定特設アドレス）宛に、氏名、所属、メールアドレスを明記してお送りください。着信後に受付完了メールを返信します。また、開催1週間前までにZoomの参加用URLをメールでお送りします。

申込メール送信先：**meijinanzanmuseum2020@gmail.com**

### 動画配信

シンポジウム終了後、録画した動画をYouTubeで期間限定配信します。詳細は、12月15日（火）頃公開する明治大学博物館ホームページの「イベント」内の情報をご覧ください。

### 問合先

明治大学博物館事務室

TEL. 03-3296-4448 E-mail [meijinanzanmuseum2020@gmail.com](mailto:meijinanzanmuseum2020@gmail.com)